

## 目次

---

日本語版への序	v
目次	vii
JAMA evidence	x
執筆者一覧	xi
前書き	xvii
序	xxi

### ■ パート A 基礎編

---

第1章 医学文献（と本書）の使い方—自身の患者ケア改善のために	3
第2章 根拠に基づく医療 (EBM) の理念	9
第3章 疑問は何か	17
第4章 エビデンスを探す	29
第5章 なぜ研究結果が誤解を招くのか：バイアスとランダム誤差	59

### ■ パート B 治療

---

第6章 治療（ランダム化試験）	67
第7章 治療はリスクを減らすか、結果を理解する	87
第8章 信頼区間	97
第9章 上級編：治療試験の妥当性	
9.1 バイアスとランダム誤差の説明	107
9.2 ランダム化試験の驚くべき結果	111
9.3 利益を理由に早期中止されたランダム化試験	141
9.4 ITT（治療企図）の原則	153
9.5 N-of-1 ランダム化比較試験	163
9.6 臨床決断支援システム	177
第10章 上級編：治療試験の結果	
10.1 仮説検定	193
10.2 結果を理解する：オッズ比についてもっと詳しく	205
10.3 何が信頼区間の幅を決めるか	215
10.4 複合エンドポイント	221
10.5 患者の経験を測定する	233

第 11 章 上級編：治療試験の結果の適用	
11.1 個々の患者に結果を適用する	253
11.2 治療必要数の例	271
11.3 誤解を招く臨床試験結果報告に対処する	281
11.4 代理アウトカム	297
11.5 質的研究	317

## ■ パート C 害（観察研究）

第 12 章 害（観察研究）	337
第 13 章 上級編：害 相関と回帰	355

## ■ パート D 診断

第 14 章 診断の過程	369
第 15 章 鑑別診断	377
第 16 章 診断検査	389
第 17 章 上級編：診断	
17.1 範囲バイアス	409
17.2 尤度比の例	419
17.3 偶然以上の一致の測定	447
17.4 臨床予測規則	457

## ■ パート E 予後

第 18 章 予後*	473
------------	-----

## ■ パート F エビデンスをまとめる

第 19 章 エビデンスをまとめる	487
第 20 章 上級編：システムティック・レビュー	
20.1 報告バイアス	507
20.2 固定効果モデルとランダム効果モデル	519
20.3 研究結果間のばらつきの意味を理解する	527
20.4 いつサブグループ解析を信頼するか	535

\* 2010年9月時点、JAMAEvidence ウェブサイトにおいて、e18.1「How to Use an Article About Genetic Association」が追加されている（オンラインのみ）。